



浸水の目安

2階も水没する程

2階部分も浸水する程度 5.0m

1階が水没する程度 2.0～3.0m

1階が広く浸水する程度 1.0～2.0m

床上から1階が浸水する程度 0.5～1.0m

床下程度 0.5m未満



凡例

浸水した場合に想定される水深(ランク別)

5.0m以上の区域

避難場所

3.0～5.0m未満の区域

福祉避難所

2.0～3.0m未満の区域

水位観測所

1.0～2.0m未満の区域

地下道(アンダーパス)

0.5～1.0m未満の区域

0.5m未満の区域

市町境界

内水氾濫と外水氾濫の違い

【内水氾濫】

町内に降った雨は、普段は側溝などを通じて河川に排水されます。しかし、ゲリラ豪雨のような雨が降ると、側溝や下水道の排水能力が追いつかなかったり、河川の水位が上昇して排水できないことがあります。このように、地域に降った雨が河川にたどり着く前に地域で溢れる状態のことを「内水氾濫」といいます。



【外水氾濫】

大雨によって河川水位が高くなると、堤防を超えて水が溢れたり(溢水)、堤防が壊れたり(決壊、破堤)することがあります。このようなことが原因で生じる氾濫のことを「外水氾濫」といいます。

宇治川が氾濫した場合
洪水浸水想定区域図

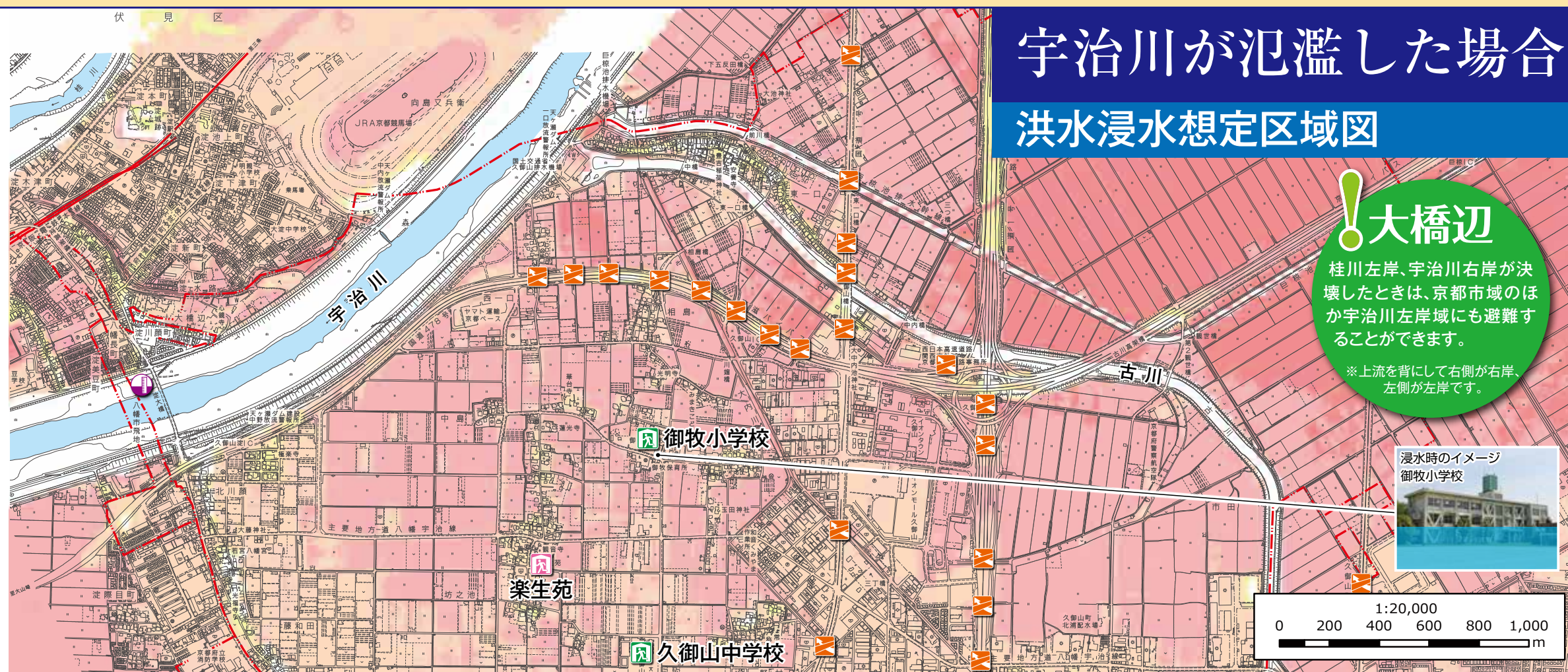
!大橋辺

桂川左岸、宇治川右岸が決壊したときは、京都市域のほか宇治川左岸域にも避難することができます。

※上流を背にして右側が右岸、左側が左岸です。

浸水時のイメージ

御牧小学校



(桂川が氾濫した場合) (東高瀬川が氾濫した場合) (鴨川・高野川が氾濫した場合)

